

新潟市民病院整形外科専門研修プログラム

目次

1. 新潟市民病院整形外科研修プログラムについて
2. 専門研修後の成果
3. 新潟市民病院整形外科専門研修プログラムの特徴
4. 新潟市民病院整形外科専門研修プログラムの研修方法
5. 新潟市民病院整形外科専門研修プログラムの評価方法
6. 新潟市民病院整形外科専門研修プログラム連携施設
7. 専攻医受入数
8. 地域医療・地域連携への対応
9. 実際の研修予定
10. サブスペシャリティ領域との連続性について
11. 研修の休止・中断・プログラム移動、プログラム外研修の条件
12. 専門研修プログラムを支える体制
13. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について
14. 専攻医の採用

1 新潟市民病院整形外科研修プログラムについて

新潟市民病院整形外科の理念は、全ての運動器疾患・外傷に対し、高いレベルの急性期治療を行うことで、患者さんに高いレベルの機能回復をもたらすことである。そして、当科を基幹施設として行う研修プログラムの理念は、「全ての運動器疾患、外傷症例に対し、的確な診断・治療・全身管理・社会復帰のサポートを行うために十分な能力を身につけること、かつ運動器疾患・外傷医療の進歩に寄与するための研究を行うための基礎的能力を身につけること」である。

この理念を達成するために、専門研修プログラムでは以下 1～4 の修得を重要視している。

1. 運動器疾患、外傷治療のプロフェッショナルとして必要な知識、技術を身につける。このためには、臨床現場での多くの経験、特に手術室や救急室での経験、講義・カンファランス・勉強会を通じた知識の獲得、模擬骨などを用いた手術テクニックの修得トレーニング、などが必要になる。
2. 同僚医師、他科医師、関連他職種も含めた診療チーム内でのリーダーシップ、コミュニケーション能力を高める。これにより診療チーム全体の総合力を上げることを可能とする。
3. 診療、研究の内容を、特に倫理的観点から客観的に見て、記載する能力を身につける。また、豊かな人間性を身につけ、患者さんを全人的に治療することを目標とする。
4. 臨床の場で時に遭遇する、困難な状況に負けない対応力を身につける。これには、先輩医師の指導下に安全性を担保しながら、困難な場面を切り抜ける経験を積むことが重要である。

当院には、重症運動器疾患や多発外傷を含む重症外傷が多数受診され、救命科を始めとする他科と協力しながら、超急性期から急性期の高度治療を行っており、この治療にチーム治療の一員として参加していただくことで、救命を目指しながら回復後の機能回復を最大限にするための治療を行うことを学んでいただく。新潟市民病院への受診が少ない軽症の外傷については、連携施設に多数受診しているため、同院での研修中に十分経験が可能である。

また当院では、重症から軽症までの多数の手の外科、股関節外科、膝関節外科、脊椎脊髄外科、スポーツ外科、リハビリテーション治療を行っており、十分な経験を積むことが可能である。日々の研修の際に、遅滞なく指導を受けることが重要なので、検討会、回診を連日行っている。新潟市民病院に比較的症例が少ない関節リウマチ、小児整形外科、軟部および骨腫瘍治療に関しては、新潟大学医歯学総合病院などの関連施設にて、研修を行う。

3年9か月間の研修期間中、多発外傷や重症外傷、重度併存症合併患者の全身的治疗、管理についても学んでもらうが High volume、High quality な研修により整形外科専門医に求められる全ての要素を身に着けた Top surgeon の育成を目指している。

当プログラムを構成する病院名と各施設の指導医数、年間新患数、年間手術件数を表に示す。このプログラムに参加する病院の指導医数は 66 名、合計年間新患数は 23266 例、手術数は 11898 件であり、多数の指導医からの的確な指導を受けながら、診察や手術の執刀や助手などの多くの経験を積むことが可能である。特に外傷に関しては全国有数の症例数を経験可能である。

2021 年度はコロナ対応のため軽症手術を制限した結果、新潟市民病院における年間新患数は 1679 例、手術件数は 1113 例とコロナ以前の年間新患患者数 2000 例弱、手術件数 1350 件程と症例数は減少しているが、2020 年度の年間手術件数 991 件より増加している。

当プログラム参加施設の2020年実績

	指導医数	年間新患者数	手術数								合計
			脊椎脊髄	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児	腫瘍	
新潟市民病院	5	1679	280	134	207	396	20	12	55	9	1113
新潟大学病院	19	994	227	86	173	178	20	30	63	145	922
新潟中央病院	8	4801	888	415	456	732	9	51	65	29	2645
県立新発田病院	7	2883	144	73	192	560	0	11	0	14	994
長岡赤十字病院	7	1223	259	58	115	1035	97	0	60	14	1638
長岡中央病院	6	2805	303	473	392	284	1	55	9	9	1526
魚沼基幹病院	5	3945	206	69	133	640	10	21	47	79	1205
新潟県立中央病院	6	1952	94	339	402	182	20	58	45	7	1147
佐渡総合病院	3	2984	36	89	47	482	0	28	5	21	708
合計	66	23266	2437	1736	2117	4489	177	266	349	327	11898

医療機関	指導可能な研修領域										指導医数
	脊椎	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児整形	腫瘍	リハビリ	地域医療	
新潟市民病院	●	●	●	●	●	●			●	●	5
新潟大学医歯学総合病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	19
新潟中央病院	●	●	●	●		●	●		●	●	8
新潟県立新発田病院	●	●	●	●		●		●	●		7
長岡赤十字病院	●	●	●	●	●		●		●	●	7
長岡中央総合病院	●	●	●	●		●			●	●	6
魚沼基幹病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	5
新潟県立中央病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	6
佐渡総合病院		●		●						●	3

指導医と担当指導分野一覧

施設名	指導医名	分野1	分野2	分野3
新潟市民病院	瀬川 博之	下肢	リウマチ	スポーツ
新潟市民病院	山下 晴義	上肢・手	外傷	リハビリ
新潟市民病院	庄司 寛和	脊椎	外傷	リハビリ
新潟市民病院	石川 裕也	脊椎	外傷	地域医療
新潟市民病院	酒井 芳倫	下肢	外傷	リハビリ
新潟大学医歯学総合病院	川島 寛之	腫瘍	上肢・手	リハビリ
新潟大学医歯学総合病院	渡邊 慶	脊椎	外傷	小児整形
新潟大学医歯学総合病院	近藤 直樹	リウマチ	上肢・手	下肢
新潟大学医歯学総合病院	村上 玲子	小児整形	下肢	リハビリ
新潟大学医歯学総合病院	有泉 高志	腫瘍	下肢	リハビリ
新潟大学医歯学総合病院	谷藤 理	下肢	外傷	スポーツ
新潟大学医歯学総合病院	普久原 朝海	外傷	上肢・手	下肢
新潟大学医歯学総合病院	今井 教雄	下肢	外傷	リハビリ
新潟大学医歯学総合病院	大橋 正幸	脊椎		
新潟大学医歯学総合病院	望月 友晴	下肢	上肢・手	スポーツ
新潟大学医歯学総合病院	依田 拓也	上肢・手	外傷	小児整形
新潟大学医歯学総合病院	田仕 英希	脊椎		

新潟大学医歯学総合病院	鈴木 勇人	下肢	外傷	
新潟大学医歯学総合病院	古賀 寛	下肢	外傷	地域医療
新潟大学医歯学総合病院	堀米 洋二	下肢	外傷	地域医療
新潟大学医歯学総合病院	渡辺 要			
新潟大学医歯学総合病院	木村 慎二	リハビリ		
新潟大学医歯学総合病院	湊 圭太郎			
新潟大学医歯学総合病院	牧野 達夫			
新潟中央病院	柴田 実	上肢・手	外傷	小児整形
新潟中央病院	山崎 昭義	脊椎	外傷	地域医療
新潟中央病院	松枝 宗則	下肢	外傷	スポーツ
新潟中央病院	勝見 敬一	脊椎	外傷	小児整形
新潟中央病院	井上 旬二	下肢	リハビリ	スポーツ
新潟中央病院	早川 敬	上肢・手	外傷	スポーツ
新潟中央病院	畠野 義郎	上肢・手	外傷	スポーツ
新潟中央病院	溝内 龍樹	脊椎	外傷	リハビリ
県立新発田病院	三輪 仁	上肢・手	外傷	スポーツ
県立新発田病院	佐藤 剛	脊椎	外傷	腫瘍
県立新発田病院	今尾 貫太	上肢・手	外傷	リハビリ
県立新発田病院	須田 健	下肢	外傷	スポーツ
県立新発田病院	高木 繁	下肢	外傷	
県立新発田病院	白野 誠	下肢	外傷	スポーツ
県立新発田病院	渋谷 洋平			
長岡赤十字病院	羽生 忠正	リウマチ	上肢・手	下肢
長岡赤十字病院	井村 健二	下肢	外傷	リハビリ
長岡赤十字病院	三浦 一人	脊椎	外傷	リウマチ
長岡赤十字病院	森田 修	脊椎	外傷	リウマチ
長岡赤十字病院	根津 貴広	リウマチ	上肢・手	下肢
長岡赤十字病院	川嶋 禎之	下肢	小児整形	地域医療
長岡赤十字病院	川瀬 大央	上肢・手	下肢	外傷
長岡中央総合病院	矢尻 洋一	脊椎		リハビリ
長岡中央総合病院	浦川 貴朗	脊椎	外傷	リハビリ
長岡中央総合病院	善財 慶治	上肢・手	外傷	リハビリ
長岡中央総合病院	村山 敬之	下肢	外傷	スポーツ
長岡中央総合病院	八幡 美緒	脊椎	リハビリ	地域医療
長岡中央総合病院	高橋 一雄	脊椎	外傷	地域医療
魚沼基幹病院	生越 章	腫瘍	小児整形	地域医療
魚沼基幹病院	平野 徹	脊椎	外傷	地域医療
魚沼基幹病院	白旗 正幸	上肢・手	外傷	リウマチ
魚沼基幹病院	目良 恒	下肢	リハビリ	地域医療
魚沼基幹病院	上村 一成	上肢・手	外傷	
県立中央病院	荒井 勝光	リウマチ	上肢・手	下肢
県立中央病院	小泉 雅裕	上肢・手	外傷	小児整形
県立中央病院	保坂 登	脊椎	外傷	リハビリ
県立中央病院	藤川 隆太	脊椎	外傷	腫瘍
県立中央病院	植木 将人	上肢・手	外傷	地域医療
県立中央病院	穂刈 翔	下肢	外傷	スポーツ
佐渡総合病院	生沼 武男	上肢・手	外傷	地域医療
佐渡総合病院	勝見 亮太			
佐渡総合病院	鈴木 宣英	上肢・手		

2. 専門研修後の成果

専攻医はこのプログラムによる研修により、以下の 8 項目を備えた整形外科専門医となることが期待される。

- 1) 運動器疾患、外傷について適切な診断を下し、標準的治療を行うことができる
- 2) 運動器疾患、外傷治療の際に経験する合併症に対し適切な治療、管理を行うことができる。
- 3) 運動器疾患以外の併存症について評価し、各科専門医と協力し全身管理ができる。
- 4) 適切なリハビリテーション処方、装具処方ならびに回復期病院へ適切な引き継ぎが可能となる。
- 5) 医の倫理に配慮した判断、行動が可能となる。
- 6) 患者や医療関係者と適切にコミュニケーションすることで治療をスムーズに行うことができる。また、チーム医療のリーダーとして、チーム全体の総合力を上げ、医療の質を向上するための行動を継続する。
- 7) 診療記録を的確に記載できる。
- 8) 整形外科の進歩に合わせた生涯学習を行う姿勢を修得し、また後輩医師を指導する能力を持ち、さらに整形外科の進歩に寄与する研究を実践するための基盤を獲得する。

3. 新潟市民病院整形外科専門研修プログラムの特徴

- 1) 全国有数の救急搬送患者を受け入れている新潟市民病院(2021年の救急車搬入 5320 件、内外傷症例 945 件、ドクターカーを運用)で研修を行うことで、どのような運動器疾患、外傷の急性期治療についても対応可能となる。救命科との連携が良好なことも大きな特徴である。
- 2) 新潟市民病院には手の外科、股関節外科、膝関節外科、脊椎脊髄外科、外傷治療、スポーツ医学、リハビリテーションの専門医が、また関連施設の新潟大学医歯学総合病院には、リウマチ、小児整形、腫瘍、リハビリテーションの専門医が指導医として勤務しており、最新の治療を経験することが可能。
- 3) 同じ新潟市内に位置する新潟大学と連携したプログラムであるため、大学において開催される検討会や研究会に参加する機会が多く、最新知識を得ることが可能である。
- 4) プログラムに参加する各病院の症例数が豊富なため、研修中に執刀可能な手術件数が多い(年間 120 件以上、3 年 9 か月間で 500 件を目標とする)。
- 5) 整形外科研修医向けに、模擬骨を用いた骨折手術トレーニング、ギプス装着実技の講習会を開催。また、専門医資格取得に向けて各指導医(院外医師を含む)からの集中講義を開催している。
- 6) 新潟県医師養成修学資金を貸与している修学生では、一般コースで 4 年、重点コースでは 7 年の新潟県内の病院で、新潟市外の病院での勤務が必要となるが、当プログラムでは県立新発田病院、長岡赤十字病院、長岡中央総合病院、魚沼基幹病院、県立中央病院が連携施設となっており、新潟市民病院 1 年、新潟大学医歯学総合病院 1 年以外の期間については新潟市外での勤務も可能である。

新潟市民病院整形外科週間予定

	月	火	水	木	金
朝 8～9 時	検討会	検討会	検討会 抄読会	検討会	検討会
午前	手術・外来	手術・外来	手術・外来	手術・外来	手術・外来
午後	リハビリ検討会 脊椎検討会	手術 検査	手術 検査	手術 検査	手術

4. 新潟市民病院整形外科専門研修プログラムの研修方法

①臨床現場での学習

整形外科専門研修プログラム整備基準附属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って、新潟市民病院ならびに連携施設において研修を行う。当プログラムにおける専門知識習得の年次ごとの到達目標と専門技能修得の年次ごとの到達目標は、同上解説資料 1「専門知識習得の年次毎の到達目標」、資料 2「専門技能修得の年次毎の到達目標」に準じるものとする。

実際の研修は、1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを10の研修領域に分割し、当院ならびに連携施設において各分野の定められた単位数以上を研修し、3年9か月間で45単位を修得する。

②臨床現場以外の学習

上記した様に、模擬骨を用いた骨折手術の実技トレーニング、ギプス装着講習、指導医による講義を開催している。日本整形外科学会学術集会時の教育研修講演、関連学会、研究会において日本整形外科学会が認定する教育研修講演、などにおいて運動器疾患、外傷の標準的治療や、先進的な研究成果などを学習する。新潟市民病院が開催する、年2回の研究会や新潟大学が開催する年5回の整形外科研究会においては、多領域の大学教授クラスの講演を聴くことが可能。また、新潟市民病院や新潟大学が主催する、医療倫理、医療安全、感染予防、統計学、他分野の研修会に参加することで、幅広い知識を獲得可能である。AOコース、日本骨折治療学会主催の講習会への参加も推奨している。

新潟市民病院には院内図書室が整備されており、The Journal of Bone and Joint Surgery, Spine はじめ多くの雑誌がオンラインで自分のコンピューターから購読可能である。稀な文献に関しては図書館司書に取り寄せてもらうことが可能である。また Clinical Key, UpToDate を閲覧可能で最新の医学情報が入手可能である。

5. 新潟市民病院整形外科専門研修プログラムの評価方法

研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科専門医管理システムを用いる。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価、指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行う。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価する。また、指導医は抄読会や勉強会、カンファランスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行う。

総括的評価

1) 評価項目・基準と時期

専門研修最終年度の12月に研修期間中の研修目標達成度評価報告と経験症例数報告をもとに総合的評価を行い、専門的知識、専門的技能、医師としての倫理性、社会性などを修得したかどうかを判定する。

2) 評価の責任者

年次毎の評価は専門研修基幹施設や専門研修連携施設の専門研修指導医が行う。専門研修期間全体を通しての評価は、専門研修基幹施設の専門研修プログラム統括責任者が行う。

3) 終了判定のプロセス

研修プログラム管理委員会において、各専門研修関連施設の指導管理責任者を交えて専門研修終了判定を行う。判定基準は

- i. 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること(別添の専攻医獲得単位報告書を提出)
 - ii. 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること
 - iii. 臨床医として十分な適正が備わっていること。
 - iv. 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続きにより 30 単位を修得していること。
 - v. 1 回以上の学会発表、筆頭著者として 1 編以上の論文があること。
- の全てを満たしていることである。

4) 他職種評価

専攻医に対する評価判定に他職種(看護師、技師等)の医療従事者の意見も加えて医師としての全体的な評価を行い専攻医評価表(資料 10)に記入する。

6. 新潟市民病院整形外科専門研修プログラム連携施設

新潟市民病院整形外科研修プログラムの施設群を構成する連携病院は以下の通りで、専門研修連携施設の認定基準を満たしている。連携施設は以下の8施設である。全ての研修を新潟市内(佐渡総合病院での地域医療研修 3 か月間を除く)で完結可能なコース選択も可能であるが、新潟県医師養成修学資金を貸与している修学生では新潟県内かつ新潟市外の病院での勤務が必要となるが、当プログラムでは新潟市民病院 1 年、新潟大学医歯学総合病院 6 か月から 1 年以外の期間については新潟市外の連携施設である県立新発田病院、長岡赤十字病院、長岡中央総合病院、魚沼基幹病院、県立中央病院での研修も可能である。

【新潟大学医歯学総合病院】

新潟市民病院からは車で 20 分ほどの距離にある。(I型基幹病院として独自プログラムあり)1917 年日本で 4 番目の整形外科講座として開講し、これまでも多数の優秀な整形外科医を輩出してきている。整形外科指導医は 19 名勤務している。大学院進学やサブスペシャリティ研修制度があり、本研修プログラム終了後に進むことが可能である。また本研修プログラム終了後に新潟大学整形外科学教室に入局することは任意であり、強制はされない。

【新潟中央病院】

整形外科指導医は計 8 名おり、指導可能な研修は腫瘍以外の全 9 領域。急性期(一次, 二次救急)から慢性期へと各領域にスペシャリストが複数在籍し、しかも整形外科だけで年間手術件数は 2645 件(上肢 415 件, 下肢 456 件, 脊椎 888 件)と非常に多いため、幅広い、しかも深みのある経験ができる。手術室は 7 部屋(うちクリーンルーム 1 部屋)あり、平日の朝から夕方までほぼフル回転で稼働している。リハビリテーションのスタッフは 30 名以上が在籍。国内外の学会活動も盛んに行っている。院内保育も完備しており、安心して研修に集中できる。

【新潟県立新発田病院】

救命救急センターを併設し県北地域の広域基幹病院として 24 時間 体制で救急医療に対応している。整形外科医 10 名が常勤し、うち 7 名が日本整形外科学会専門医。大腿骨近位部骨折は年間 250 例を超え、他の外傷も非常に多いことから、指導医のもと専攻医が執刀する機会に恵まれている。ほかにも、脊椎・手・股関節・膝関節・スポーツ傷害の症例に対しても専門医による指導を受けることができる。

【長岡赤十字病院】

新潟県基幹災害医療センターであり、平成 28 年秋よりドクターヘリも運航を開始した。多くの機能をバランスよく備えた地域の中核をなす“総合”病院で整形外科専門医 7 名が在職し、リウマチ、脊椎、手外科、関節外科、外傷、リハビリを分担している。後期研修医は救急・外傷患者の診療が主になりますが、若い方の新しい発想、先端医療の導入に対してベテラン医師も柔軟に対応している。

【長岡中央総合病院】

長岡市及び新潟県中越地区の中核病院として外傷(スポーツ外傷を含め)、変性疾患等幅広い整形外科疾患に対応している。整形外科医は 8 名で内 6 名が日本整形外科学会専門医で、外傷を含め手外科、脊椎外科、膝・肩関節外科、それぞれ 2 名で診療を行っている。一般外傷はもちろん、手の外科専門医、脊椎脊髄外科指導医、公認スポーツドクターのもとで専門分野の研修が可能。基本的には研修医に積極的に執刀医となってもらう方針。多様な症例と多くの手術症例がありバランスのとれた研修ができる。また当院は特定機能病院として内科はじめ他科も充実しており、合併症をもった症例にも対応でき、幅の広い研修が可能。股関節の専門外来、リウマチの専門外来も開設している。

【魚沼基幹病院】

当院は新潟大学地域医療教育センターの役割をもち大学病院をはじめとする教育機関で長年勤務していた指導医が整形外科のみならず多くの診療科で診療と研究、教育をしている。新幹線浦佐駅の近くにあり、整形外科医常勤 8 人で多数の症例の外来診療と手術を経験できる。3 次救急や高度医療を救急医や他科の医師と協力して行う一方で、地域の患者さんのプライマリーケアを経験できる総合病院。

【新潟県立中央病院】

整形外科医 9 名が常勤し、整形外科のほぼ全領域にわたり診療を行っています。救命救急センターを併設し上越地域の 3 次救急も行っており重傷患者の治療も経験できる。当地域では冬はウィンタースポーツのメッカであることからスキー・スノーボード外傷も多く、オールシーズンにわたりオールラウンドに診療を行っている。

【佐渡総合病院】 新潟市から高速船で 1 時間の佐渡市にある病床数 354 床の総合病院。人口約 6 万人の佐渡地域の中核病院である。整形外科医は常勤 4 名および新潟大学からの非常勤医師が数名勤務している。一日平均 175 名の外来患者が訪れる。年間手術数は約 700 件。軽症から重症までのすべての整形外科疾患に対する研修が可能。

7. 専攻医受入数

専攻医 1 人あたりが経験可能な症例数を確保するため、当プログラムでは 1 年あたり 2 名、4 年間で合計 8 名を受入数とする。

8. 地域医療・地域連携への対応

新潟市民病院においては、新患受け入れは紹介状を持参する方と、救急室を受診する方に制限しているため、診断のついていない一般整形外科患者を診察する機会は比較的少ない。新患受け入れ制限をしていない施設において、数多くの外来患者を診察し、整形外科疾患の患者を受け持ち、治療を担当することは重要な研修の一つである。このため、佐渡総合病院において、最低3ヶ月(3単位)勤務することとする。その際には地域病院における、救急診療体制や病診連携や病病連携などを経験する。

当プログラムに含まれる地域医療研修病院には経験の豊富な指導医が在職し、また定期的に新潟大学からの指導医が診療を行っているため、適切な指導を受けることが可能である。

9. 実際の研修予定

一般コースである新潟市重点コースでは、3年9か月間の研修期間中、基幹施設で約2年6か月間、連携施設において約1年3か月間の研修を行う予定である。研修1年目、2年目には基本的診察能力、基本的知識と技能の修得を目標とする。3年目の1年間は関連施設である新潟大学医歯学総合病院にて、実際の臨床の場において、自己の力で診断し標準的治療を行える能力の習得を目指す。また、学会への参加や発表、そして後輩の研修医の指導などを通じて知識の整理に努める。4年目には、臨床チームのリーダーとして治療を行うことや、地域医療研修、サブスペシャリティ研修、研究の発表能力の向上に努める。

また新潟県医師養成修学資金貸与修学生については卒業後一般コースでは6年間、重点コースでは9年間の新潟市外の病院勤務が必要となるが、当科地域枠コースでは基幹施設で1年から1年半の研修を行い、魚沼基幹病院、県立新発田病院、県立中央病院、長岡赤十字病院、厚生連長岡中央病院等、新潟市外地域中核病院での研修が行える。

各学年において年間120件以上3年9か月間で500件以上の手術を執刀し、学会研究会で年1回以上発表、そして3年9か月間で最低1編以上の論文を作成することを目標とする。

新潟市集中型年次別研修例

年次		
1年目	新潟市民病院にて研修	
2年目	新潟市民病院にて研修	新潟中央病院にて研修
3年目	新潟中央病院にて研修	
4年目	佐渡総合病院	新潟市民病院に戻り研修, 専門医試験準備

3年目後半は新潟大学医歯学総合病院における研修の予定。

地域枠専攻医向け年次別研修例

年次		
1年目	地域基幹病院 A にて研修	
2年目	地域基幹病院 B にて研修	
3年目	新潟大学病院にて研修	新潟市民病院にて研修
4年目	新潟市民病院にて研修, 専門医試験準備	

3年目前半は新潟大学医歯学総合病院における研修の予定。

10. サブスペシャリティ領域との連続性について

当プログラム基幹施設である新潟市民病院には脊椎・脊髄外科(脊椎脊髄外科指導医2名)、関節外科、スポーツ整形外科(日本体育協会認定スポーツドクター1名)、外傷、手の外科

(手外科専門医 1 名)、リハビリテーション(日本整形外科運動器リハビリテーション医 2 名)などのサブスペシャリティを持つ医師が勤務している。また、連携施設には骨軟部腫瘍、小児整形、肩関節外科、足の外科、リウマチ、骨代謝などのサブスペシャリティを持つ医師が勤務している。専攻医が希望する場合には、将来のサブスペシャリティを見据えて、研修期間の後半に専門的な研修を受けることが可能である。

11. 研修の休止・中断・プログラム移動、プログラム外研修の条件

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計 6 ヶ月以内とする。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することになる。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれぞれ証明するものの提出が必要である。留学、診療実績のない大学院の期間を研修期間に組み入れることはできない。また、研修の休止期間が 6 ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が 1 年延期になる場合がある。専門研修プログラムの移動には、移動前・後のプログラム統括責任者及び研修委員会の同意が必要である。

12. 専門研修プログラムを支える体制

① 基幹病院の体制

基幹施設である新潟市民病院は、昭和 52 年から研修医の採用を開始し、これまで 40 年近くの実績がある。また、病院として医療安全、感染予防、情報セキュリティー、医療の質改善などに積極的に取り組んでおり、また医師向けの多くの研修会が開催されている。さらに、研修医に対して研修のみでなく生活面でのサポートが充実している。臨床面では地域の基幹病院として各科専門医を揃え、最新医療機器を整備し、高いレベルの治療が可能である。そして今後も指導管理責任者を中心に研修プログラムの問題点を評価し、改善を継続する。

② 労働環境、労働安全、勤務条件

- 1) 研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努める。
- 2) 研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮する。
- 3) 過剰な時間外勤務を命じないようにする。

具体的な労働環境、労働安全、勤務条件等は各施設の病院規定によるが、年間で夏季休暇 5 日、年次休暇 5 日以上が保証されている。

③ 専門研修プログラムの改善

- 1) 1 年ごとに専攻医による各指導医ならびにプログラム全体の評価を行う。
- 2) この評価は無記名で行い、各専攻医に不利益が生じないように行う。
- 3) この専攻医による評価を元に、年一回プログラムの改善について研修プログラム管理委員会による検討を行い次年度の研修の改善を実施する。

13. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について

① 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム

原則として日本整形外科学会が作成した整形外科専門医管理システムを用いて整形外科専門研修カリキュラムの自己評価と指導医評価及び症例登録を web 入力で行う。

② 人間性などの評価の方法

指導医は研修カリキュラム「医師の法的義務と職業倫理」の項で医師としての適性を併せて指導し、整形外科専門医管理システムにある専攻医評価表を用いて入院患者・家族とのコミュニケーション、医療職スタッフとのコミュニケーション、全般的倫理観、責任感を評価する。

③ プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

日本整形外科学会が作成した①整形外科専攻医研修マニュアル②整形外科指導医マニュアル③専攻医取得単位報告書④専攻医評価表⑤指導医評価表⑥カリキュラム成績表を用いる(日本整形外科学会ホームページ参照)。

14. 専攻医の採用

1)2023 年度プログラムに関する予定は以下の通りです。

・専攻医採用試験:2022 年 9 月より

2)申請に必要な書類

- ①新潟市民病院 整形外科専門研修プログラム応募申請書
- ②履歴書
- ③医師免許のコピー
- ④小論文

3)「新潟市民病院 整形外科専門研修プログラム応募申請書」の入手方法
新潟市民病院ホームページよりダウンロード(予定)

4)申請書類の提出先

・〒950-1197 新潟市中央区鍾木 463-7 新潟市民病院 専門研修支援室
新潟市民病院 整形外科専門研修プログラム統括責任者 宛

5)採用試験の内容

面接など

6)採用結果の通知について

合格者については、各人毎に連絡します。

7)追加募集について

専攻医の応募状況によっては、随時追加募集を行います。

8)詳細についての問い合わせ先(病院見学の申し込みも)

・全ての情報は新潟市民病院ホームページに適宜掲載します。

・不明な点があれば、以下に連絡をお願いします。

①Tel025-281-5151:専門研修支援室 内線 4628、FAX 025-281-5187

②E-mail:senmon@hosp.niigata.niigata.jp

③整形外科 部長 瀬川博之 (segawa@hosp.niigata.niigata.jp)